

KBCラジオ「中西和久 ひと日記」

放送日	出演者
	内容
H22. 5. 10 ～ H22. 5. 14	グループホームふぁみりえ 認知症介護 ホーム長 大谷るみ子さん 大谷るみさんは、東原整形外科病院の看護部長に就任後、2001年より認知症介護グループホーム「ふぁみりえ」ホーム長を兼任。日本では、認知症の人が価値ある人間としてケアされていないこと、その症状だけに目がいき不適切な対応になりがちであること、認知症への理解をもっと地域に広げる必要があることをデンマークで学ぶ。グループホーム「ふぁみりえ」では、その人らしさを追求し、人生の継続が出来るケアを提供。また、大谷さんが代表を務める大牟田市認知症ケア研究会では、人材育成に力を入れ、地域をフィールドに認知症ケアの実践や地域づくりの推進ができる人材として「認知症コーディネイター」に取り組んでいる。
H22. 5. 17 ～ H22. 5. 21	HIV感染者の就労 HIV感染者の就職差別 (社) はばたき福祉事業団九州支部 成瀬脩次さん 1981年に発見された「ヒト免疫不全ウイルス (HIV)」による感染者は、日本でも増え続けている。当初は、「死の病」と怖れられたが、病気の進行を抑える薬の開発で感染後も約40年間は生き続けられるようになった。1998年4月から、HIV感染者は「免疫機能障害」として身体障害者認定を受け、身体障害者手帳交付を受けられるようになった。国も「適切な雇用管理で長期の就労が可能」として偏見や差別のない雇用を求めている。にもかかわらず、病名を伝えたと採用を見送られるケースが後を絶たず、今なお、病気に対する雇用主の誤解や偏見は根強い現状がある。社会福祉事業団「はばたき福祉事業団」は、全てのHIV感染者が安心できる医療、差別・偏見のない社会作りを目指すため1997年任意団体として設立された。
H22. 5. 24 ～ H22. 5. 28	大刀洗平和記念館 戦争の歴史を語り継ぐものたち 渚上宗重さん 約30数年前、建設業をしていた渚上宗重さん(78歳)は、観光目的で訪れた知覧特攻平和会館が、自身が暮らす大刀洗町に残る飛行場・陸軍飛行学校の分教所と知り、衝撃を受けた。そして地元で飛行場の歴史を伝える施設をとの思いで、87年から22年間、甘木鉄道大刀洗駅に隣接の旧駅舎で私設の平和記念館を営む。展示物は少年飛行兵の遺影や特攻隊員の遺書、引きあげられた旧日本陸軍の戦闘機など約2000点。その後、行政が渚上さんの地道な活動を引き継ぎ、2009年10月に筑前町立「大刀洗平和記念館」としてオープン。旧記念館は、渚上さんが収集した戦後の昭和期の蓄音機やテレビなどを並べた「大刀洗レトロステーション」として再オープンした。